

たわわ

SPRING
No.82

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



想いを力タチに

感性デザイナー
しおた あきこさん

絵を描く理由。それは言葉にはできないチカラが存在するから。
文字を書く理由。それは気持ちを込めるとなにかが変わるから。

大昔、人間は空気の流れを感じていたはず。
森のにおいを嗅ぎ、鳥のさえずりを聞き、空の色を見て、大地の暖かさを感じ、食事の味を堪能していた。

ときに歓喜し、ときには恐怖に慄くこともあるでしょう。
でも感じじるということ、それだけで人は豊かになります。

私の制作は人の心や想いを感じ、モノの素材や佇まいを感じて作品にチカラを与えていきます。

ありがとうという気持ち。喜ばせたいという想い。モノを造った人の熱意。

それらが作品に込められたとき、
目に見えないチカラが現れます。
なにかが動きます。

それが私にとっての「いいモノ」
です。しかし、いつも「いいモノ」
ができるわけではありません。
「いいモノ」かどうかは出来上がりを見れば一目瞭然。どんなに
キレイにできていようが、感じ
ことのできないものはダメ。



そんなときはなにもしません。
ただただ、感覚が研ぎ澄まされるのを待ちます。ときに自然を感じ、生命の営みを感じ、人の想いを感じながら待ちます。

私の制作活動の根本は人の想いやモノの持つチカラです。
現在は筆や和紙を使った文字、ウェルカムボードや命名書などお祝いものの制作が主ですが、創るモノはなんでもいいんです。もし伝えたい気持ちや願いがあったならお気軽にお伝えください。
どこにでも描きますし、なんでも創ります。

様々な方の想いや見えないチカラを感じ、そしてよりたくさんの方が感じることができる「いいモノ」をつくること。感じることによってなにかが変わること。なにかのチカラが生み出されること。
それが私の制作活動の最大の喜びです。



たくさんのモノからチカラを貰い、たくさんの人の想いからモノを創る。

「全ての想いを力タチに。」

様々な出会いから感じる素晴らしさを知ることができます。

様々な想いから豊かになる機会を増やすことができる。

想いを力タチにすることで少しでも多くの方の喜びや幸せのお手伝いができると考えて活動しています。

風においを嗅ぎ、川のせせらぎを聞き、星空を見て、雨の冷たさを感じ、食べることに感謝すること。

五感であらゆることを感じ、ときには直感をも頼りにすること。

誰もが知っていることなんです。誰もができることがあります。
今はちょっと忘れているだけ。

いいモノ、素敵なモノに接すると人はなにかを感じ、忘れてしまったことを思い出すことができる。

そこには人の想いや願いが込められているから。

想いのチカラに反応し、それが更に大きなチカラになっていく。

ひとつひとつの事柄を大切にし、大事なモノや人に感謝し、優しくなる。

そんな感覚を少しでも感じていただければ幸いです。

「いいモノがあると人はもっと優しくなる。」

そんなバカげた夢を見ながら今日も制作を続けています。

私がチカラを感じができる全てのモノ、全ての想いに「ありがとう。」



感性デザイナー
しおた あきこさん

左利き。書道をやっていたにもかかわらず現在も主に左手を使って制作。
子供の頃から絵ばっかり描いていたので感覚で生きてる部分が多い。

素材感や質感にめっぽう弱い。

2005年から「墨遊ぶじゅん」として活動を始める。「想い」があるところ、ぼち袋など小さなモノから壁面の大きなモノまで描きまくる。

現在、3人の育児をしながら、手造りで「いいモノ」を制作活動中。

[墨遊ぶじゅん] <http://bujung.jp/> info@bujung.jp 050-1002-9751

PROFILE

平塚で味わうインド料理 ザエカ

平塚市桜ヶ丘にあるインド料理店、ザエカを御紹介します。オーナーはモハメド・ワキルさんで、4年前にこの店をオープンしました。全部で13人いる兄弟のうち4人が平塚へやってきて、このお店を経営しています。

インドは広大で、多様な文化の国です。収穫される農作物も地域によって違うため食文化はもちろん、宗教や言語、生活文化の多様さも特徴です。ワキルさんはニューデリーの出身で、朝から晩までカレー味のものを食べているそうです。ザエカでもたくさんの種類のカレー、ナンを提供しています。マトン、チキン、シーフード、野菜のカレーは種類が豊富です。反対に、宗教上の理由もあり牛や豚の入ったカレーはありません。

女性のお客さんにはサリーを巻き付け、額にビンディを貼



タンドリー盛り合わせ。
スパイシーなチキンやマトンは絶品。



カレーとナンのセット。
焼きたてのナンはモチモチです。



ヘナでボディアート。インドでは腕から手先まで細かい模様を描いておしゃれします。

り、有無を言わさずインド人ファッショのできあがり。ヘナを使ったボディアートなど、インド人女性の「おしゃれ」も体験できます。

インドは教育水準がとても高く、外国人へ移り住んで仕事をする人がとても多いそうです。優秀な理由は、学校がとても厳しいからだと。『インド人は、先生はもちろん、親や目上の人をとても尊敬するよ。日本人ももっとがんばって』とワキルさん。平塚はとても環境がよく、これほど住みやすい処はないそうです。平塚でインド文化に触れるなら、ザエカへどうぞ!

電話 0463-35-3842 URL <http://ishonan.com/zaiqa>



オーナーのワキルさん。
独身です。

プロの合唱団と舞台に立てる!

ワークショップ「東混とうたおう」の魅力



日本屈指のプロの合唱団『東京混声合唱団』が、今年9月30日に平塚市民センターホールで公演します。今回の見どころは、事前のワークショップで課題曲を練習した市民合唱団との共演です。ワークショップ参加者の大磯貴久子さんにお話を伺いました。

大磯貴久子さん 「昨年7月のワークショップ『おもしろ第9講座』への参加がきっかけで、12月の『ひらつか第九のつどい』に出演しました。約160名の老若男女が、舞台で、毎回グランドピアノの伴奏で練習できることはとても楽しく達成感がありました。本番では生のオーケストラ、プロの声楽家とともに舞台に立つことができ、かけがえのない素晴らしい経験ができました。第九での経験があったので、今回の募集を見て参加してみようと思いました。」と、想いを語る大磯さん。大磯さんは平塚市民センターで行われる公演のスタッフボランティアとして、様々な舞台の裏方を経験してこられました。もともと舞台芸術全般がとてもお好きということと、身近なホールであるということもあり、平塚市民センターとの関わりは10年以上です。「今回の公演の魅力は、何といってもプロの合唱団の方とのハーモニーを体験できる、又がない機会ということです。」5月にスタートする20回のワークショップへの期待と興奮を、笑顔でお話ししてくださいました。

(公財) 平塚市文化スポーツまちづくり振興財団では毎年数

種類のワークショップを主催しています。音楽を始めてみたいけどきっかけが…という方が気軽に参加できるよう、広く門戸を開いたどなたでも楽しめるものになっています。「熟練した経験者だけでなく、まったくの初心者でも、様々な知識、表現する喜びや達成感を得て、心から楽しかったと思ってもらえる事業にしたい。」というのが主催者のねらいです。今年度はこの他に、「能」「世界の歌」「はじめての第九講座」などが予定されています。ぜひ御参加ください。

9月30日の『東京混声合唱団平塚特別演奏会』をどうぞお楽しみに!

お問い合わせ:(公財) 平塚市文化スポーツまちづくり振興財団文化事業課
0463-32-2237



東京混声合唱団

『史跡の風景』 第1回

北金目塚越古墳



公園整備前の塚越古墳1

平塚市北金目に所在する塚越古墳は、相模国でも有数の規模を有する前方後円墳として早くから注目されていました。石野瑛氏は著書「考古集録」の中で大正13年7月の踏査記事として墳丘上からの眺望を絶賛しています。



公園整備前の塚越古墳2

最初の調査は昭和34年、平塚市教育委員会が埋葬主体部を中心とした発掘調査及び墳丘の実測調査を実施し、埋葬施設は大木を割り抜いて作った長大な木棺を粘土で覆ったものと推定されました。過去の盗掘のため出土した遺物はわずかで、微量の人骨・管玉6点・鉄製工具片1点を出土するにとどまっています。このときの調査では塚越古墳を「6世紀代の前方後円墳」としていましたが、平成6年から平成19年に神奈川県教育委員会や平塚市教育委員会が実施した周溝の確認調査によって前方後円墳ではなく前方後方墳であることが確認されました。同時に築造年代も4世紀に遡る古い古墳であることもわかりました。周溝を含めた長さ55mという大きさは、相模国内で現存する前方後方墳の中で最大のものです。



公園として整備された現在の塚越古墳

さて「古墳」は被葬者の支配地域を見渡す地に築造されることが多く、墳丘からの眺望は「古墳」を構成する重要な要素の一つとなっています。「古墳の上から何が見えるか」に意味

があることは言うまでもありません。塚越古墳は標高36m～37mを測る北金目台地東端部の最高地点に築かれ、台地の東麓に広がる水田地帯はもちろんのこと、遠く平塚市街地や高麗山まで望見することができます。そして北側には大山、西には富士の姿もはっきりと目に映ってきます。まるで自分が地域の中心に立っているような気分に浸ることができます。

かつての塚越古墳は、1600年の風雪によって一回り小さくなつたその姿を周囲の畠の中に静かに横たえていました。ただ、年に一度桜の季節だけは後方部の端に植えられた3本の桜が盛大に咲き誇り、台地全体に春の訪れを告げながら古墳の存在を主張していました。近年の区画整理事業によって周囲の畠は宅地と道路に生まれ変わりつつありますが、塚越古墳は公園としてその姿を残すことになりました。新しい街並みの中で少し窮屈そうな苦笑いも感じられますが、これからも地域のシンボルとして私たちを見守り続けてくれることでしょう。(平塚市博物館学芸員)



塚越古墳墳頂から平塚市街地方面を望む

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活かされます。基金に御寄附くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。御支援をよろしくお願いいたします。(電話 32-2235)

平塚市文化振興基金にご寄附をいただいた方

H24.1月から3月まで(敬称略)

- 匿名(24.2.28)
- 社会福祉法人進和学園しんわ本人自治会連合会(24.2.28)
- 湘南ステーションビル(株)(24.3.12)

発行

平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町15-1平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466